

ほそや美恵子のニュースレター

女性の政治参加

女性が参政権を得て39人の国会議員が誕生してから今年で70年になりました。しかしそれからは、むしろ後退しています。

いったい日本は女性蔑視の国なののでしょうか。そんなことはありません。

家庭で地域で、女性は元気に積極的に活動しています。

ただ、こと公の場になると……女性は発言しないもの、という暗黙の了解事項が出来上がってしまっているかのようです。

『政治に無関心でいられても、無関係ではられない』といいます。

子育てや介護など実情をあまり知らない男性たちで作られた政策は、実際には使い勝手が悪いものとなり、回りまわって女性や関係する人の苦勞につながります。

4月より女性活躍推進法が施行されました。従業員300人以上の各企業、各自治体に対し、女性を3割以上幹部として確保せよというもの。今の日本ではこの様に法律で命令しなければならないほど女性の社会進出は進んでいないようです。

ではこの法律を作った国会はどうなのか？国会から地方まで、女性議員は誠に少ない。

世の男女比はほぼ同数ですから、議員にも女性が半分は、いていいはず。企業も自治体もそれに習うでしょう。「かいより始めよ」です。それが先ではないでしょうか？



3月本会議登壇

議会の活性

議会は年4回開かれます。6月、9月、12月、3月です。ここで議員に与えられている「質問する権利」は大変重要なものです。私は質問するための調査、勉強に時間をかけます。質問することで執行部の一人歩きや暴走をストップしたり、予算の使い道や仕事の進捗状況などチェックしたりできるからです。議員に与えられた最大の権能といってもいいでしょう。質問される執行部側としては、うっとうしく厳しく感じる向きもあるかもしれませんが、質問されなければ答弁書を作成するための長い時間は必要ありませんし、議場で答えに窮することもありえないからです。彼らにとって質問しない議員は仏さまに見えるかもしれません。しかしそれでは何一つ発展はありません。切磋琢磨していかなくてはなりません。もっとも、喜んで熱心に答えてくれる方々もたくさんいますが。

ほそや美恵子事務所

☎ 048-598-8232
FAX 048-598-8234
Eメール miekohosoya@yahoo.co.jp
HP miekohosoya.com
ブログ ameblo.jp/mimi68/

ほそや美恵子
プロフィール

行田市議会議員
健康福祉常任委員会委員
鴻巣行田北本環境資源組合議会議員
社会福祉協議会理事
県立熊谷女子高等学校卒
中央大学文学部・法学部卒

★3月議会 私の質問(質問と答弁合わせ制限時間 60分。一問一答方式開始)

(1)空き家対策 危険な状態とされる「老朽空き家」については助言が進み約90件中9件の撤去が実現したようだ。一方、まだ良い状態の空き家については施策を考えているか？

(質問)今後使用予定のない空き家1770件については管理や売却、活用等が必要とされているが、その支援は？シルバー人材センターと提携し1年たつが活用されているか？また民間の100円管理センターや空き家バンクなどで活用等は考えないのか？空き家周辺住民の苦情等に対し、たらい回しはしていないか？

(答弁)今までシルバーセンターの利用実績はない。空き家管理の責任は所有者にあり、これ以上の施策はまだ考えていない。民間会社の情報も検討したい。苦情受付の窓口は一つにしてある。

(2)教育行政 対策が急がれる学力向上には家庭学習も重要不可欠だがどのように進んでいるか？

(質問)第2の家庭といわれる学童での学習支援は任意なのか？参加無料の放課後子ども教室は市内全16校に設置するのか？文科省が全国規模で進める未来子供塾等の無料の放課後学習支援は行わないのか？

(答弁)学童の学習支援はもっと力を入れたい。未来子供塾等は知らなかったので今後検討したい。

(3)要介護者や認知症の患者を介護する家族への支援 現状で十分と思うか？

(質問)家庭で介護している人を把握しているか？支援は十分行き届いているか？窓口が複雑で分かりにくい。一元化できないか？無理なく相談等できる憩いの場となる場所を各地に作れないか？

(答弁)家庭介護の現状は毎年ネットワーク会議を開き把握に努めている。

窓口として一番のものは市役所高齢者福祉課だから、一元対応するよう検討をする。

行田市 28年度事業について

①子育て世帯定住促進事業(4,740万円 237件分見込み)

子育て世帯を呼び込むため5年以上定住の意思があり市内に新たに住宅を取得した場合の奨励金制度。

①転入者に上限20万②市内事業者施工物件の場合上限20万円③三世帯同居・近居の場合上限20万円

②の奨励金について、中古住宅は適用されない。しかし市内には改修改装を請け負う建築業者は少なくない。なぜ中古住宅を適用外とするのか。空き家が増え続ける中、中古を買い改装する、または親の家に同居しようと改修する、その時②が適用されないのはいかなるものか。なぜ既存物件の有効活用の方でも政策立案できないのか。また、新規の住宅取得価格に対して、奨励金は金額的に少なく、子育て世帯の呼び込みに有効か疑問。

②観光委託事業(1,000万円)

産文横のバスターミナルに観光案内所がオープンした。多額の建設費をかけた和風の立派な建物だ。JR行田駅前の観光案内所とあわせて管理運営を民間業者「いきいき財団」に委託。ちなみに「おもてなし甲冑隊」も委託(委託料3,000万円)。財団の理事長は市長。

観光事業は攻めの事業だ。財団に委託したから民間活力の導入ができ活気がでるといえるが、果たして、どうか？ただ空間を作っただけではもったいない。喫茶、農産物や土産物の販売、イベントもできる、多機能利用スペースにすればどうか。いきいき財団は行田市内の観光施設の多くをマネジメントしているが、その手腕が問われる。

③市内全小学校にパワーアップサポーター(学習支援員)を配置(1,100万円)

昨年の全国学力学習調査と県学力学習調査の結果、本市は平均を下回った。教育委員会もこの結果を重要視し、若手教員に授業の進め方等の指導・助言、算数の学習支援をするベテランの元教員を配置した。

私はこれを喫緊に取り組むべき重要問題と何度も質してきた。子供の教育に待ったはなし。早い対応を歓迎する。

④防災備蓄庫等整備事業

現在の備蓄庫は市内 40 か所(食料は 26 か所)に分散して配置され浸水被害等に備えている。主な食糧はビスケット 18,720 食、アルファ米 27,400 食、「えいようかん」5,700 食、おかゆ 2,250 食、保存水 15,600 本だ。

これだけで足りるのか問うと、備蓄庫間の融通で賄い、その後は関係企業から調達という。基準では 3 万食というところ 5 万 4 千食備蓄しているという。現在のビスケットはアレルギー対策のため、本年米粉原料のものに全部差し替え予定とのこと。今後ハラルなど宗教上勘案すべき食料も備蓄に必要となってくるのではないかと。

その他

環境資源組合議会 2 月議会

資源組合=ごみ処理広域化のため組織された組合議会、行田市 5 名、鴻巣市 5 名、北本市 4 名の選出議員で構成されている。2 月定例会で組合管理者が行田市長から鴻巣市長に交代となった。

(細谷の質問内容)

議会の内容を3市の市民の皆さんに伝えるべきだ。インターネットでやっているというが、十分な「広報」とは言えない。広域化することに伴いごみ収集方法など最も大きく変化するのは行田市ではないだろうか？詳細を随時伝えていかなければならない。広報誌を作って全戸配布すべきだ。他の資源組合はやっている。なぜできない。答弁は、「検討したい」というものであった。のんびりしすぎだ！

議員定数削減検討委員会結成

自治会連合会より議長あて削減要望。4 月より選出議員(私も含め)9 名で検討開始する。

単なる数合わせの問題ではない。地方議会のあり方に関わる問題。しっかり取り組みたい。

執行部組織に専門部署設置

空き家問題、教育問題を重要かつ喫緊の最重要課題とし専門的に取り組む各セクションが設けられた。

私はこの2つの問題について繰り返し定例議会のたびに質問してきた。対応を歓迎する。

こんなブログを
毎日発信しています
(ameblo.jp/mimi68/)

6 月議会 6 月 14 日～30 日
一般質問 6 月 16 日、17 日、20 日
(質問登壇の日時は直前のくじ引きで決まります。傍聴ご希望の方は細谷までお問い合わせ下さい。)

NO.1

2016/03/01

今日は朝、9時半から質問に登壇しました。

冷たい朝でしたが、たくさんの方々が傍聴に来て下さいました。

私がやるものと思って昨日傍聴に来て下さった方々が、今日改めて傍聴に来て下さりもしました。ありがたいな…

ところで、質問の順番はくじ引きで決まります。かなり直前…になってのくじ引きです。せめて市のホームページ以外にも質問の順番をお知らせする方法があれば…。

これから登壇します



東京八重洲 地域包括ケアシステムの勉強会。高齢者が劇的に増える 2025 年には、総人口の 30 パーセントが高齢者となる。65 才以上は高齢者となるから、私も 9 年後は仲間入りだ。地域包括ケアは、これまでの考え方を大きく変えて行くシステムだ。在宅医療、在宅介護 を目指す。この転換はなかなか受け入れ難いところもあるため、時間がかかって行く。認知症についても同様、地域で患者をケアする。そのため土壌作りに講習会を開き認知症についての学習をしてもらう。いずれにしても介護状態にならないよう、死ぬまで健康が最大目標。そのためには運動など毎日の生活の摂生が大切ですね。



全国から集まった議員

NO.3

うーん考える



新設観光案内所

バスターミナル観光案内所 再訪 お昼時ですが、お客さん 1 人も無く…椅子やテーブルが寂しそうだ。どうなんだろう…？ 今後もこんな感じで進んでいくのでしょうか？せっかく大きなお金を使って作ったのだから、もっと賑わって欲しい。多くの来場者を見込んで作ったのでしょうか、が、春の暖かな今日のような日でも、閑散、としている。税金の無駄使い、と言われかねない。行田市には余裕が無い、といつも言っているではないか！

みずしろセンターの市民活動サポートセンターへ

オープンスペースで開設されているが、隅にあって目立たないし駐車場も小さく不便だ。市民の活動や交流をサポートするためのスペースやステーションとしての存在なのだから、産文や商工センター内など、目を引いてまた駐車スペースなど余裕があるところにすべき。いっそバスターミナル観光案内所内にしたら…

綺麗で目を引き、みんなが集まりやすく、駐車場も巨大だし、バスでもやってこれるし、いいのではないかなあ…うーん



サポートセンター

新設学童



箱もの

NO.4

新設された学童。校舎の空き教室を改装したもの。

再利用は確かに良い事だ、が、再利用なのに、約2千万円の費用がかかっている。一戸建て住宅が買える様な金額だ。

私は委員会審議でも質した。どうしてそのように高額か？と。大きいのは、トイレ建設にかかる費用との答弁。トイレは、あるものをつかえばよいのでは？と重ねて問うと学校の

ものは使えないと。

その結果、外にトイレが新設された。確かに立派だが、外にあるため、夜間など先生の付き添いが必要だ。砂塵が舞い込み掃除も大変そうだ。

また、トイレの建物が学童教室の南側を覆うように建てられているため、教室には陽射しが入らず寒々としている。室内にはワンルームアパートにあるような小さく背の高いシンクが1つ、申し訳程度

にあるだけで、多くの児童を預かるには手洗い場にもならず不便極まりない。大切な子供たちを預かる施設。現場の声を十分取り入れて設計すべきである。箱ばかり作れば良いと言うのでは、昔に逆戻り、だ。



トイレが日差しを阻む